

「ほどよいまち」について

図 1 地域ブロックにおける位置づけ

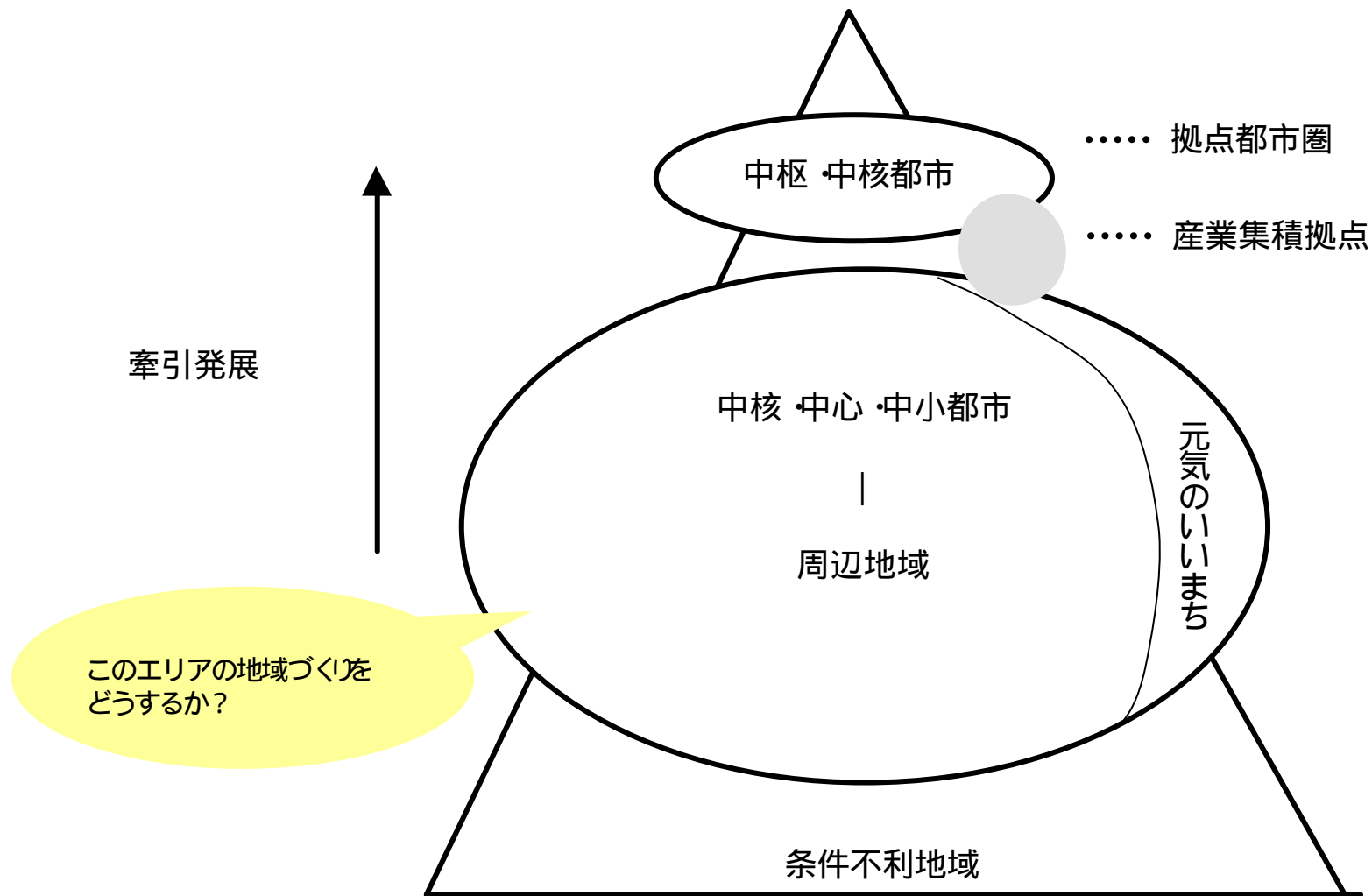
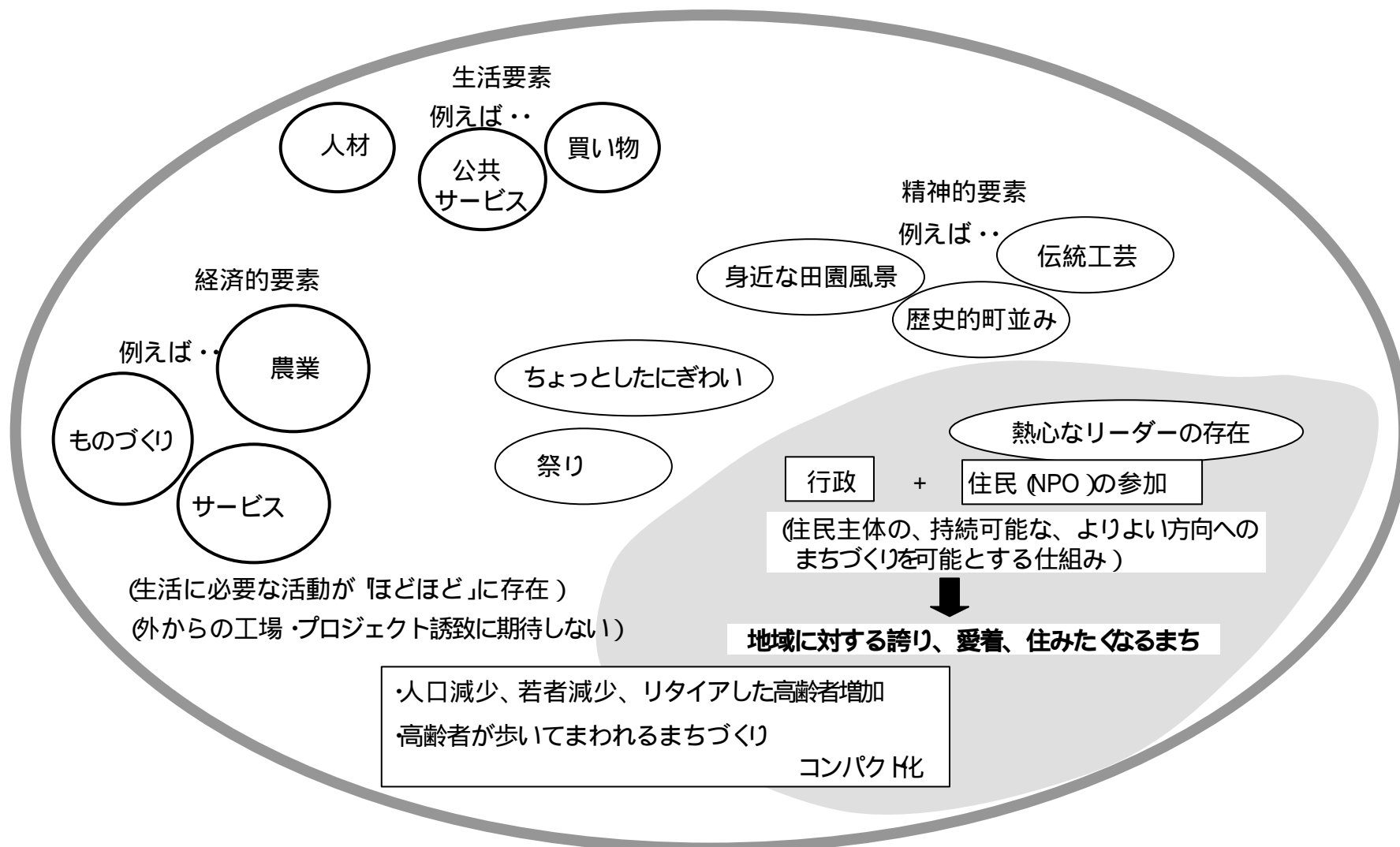


図2-1 「ほどよいまち」のイメージ



「ほどほど」、「ほどよい」: 極端や華美を嫌い、節度を重視する日本人の伝統的価値観である「中庸の徳」

「ほどよいまち」の対象エリア: 境界は確定しない

大きな社会的流れ: 行政対象範囲・規模の見直し

NPO等、住民活動活発化の動き。かつて日本に存在していた住民自治組織(団、組、結、講)が姿を変えた形で復活の動き  
元気な団塊世代のリタイア

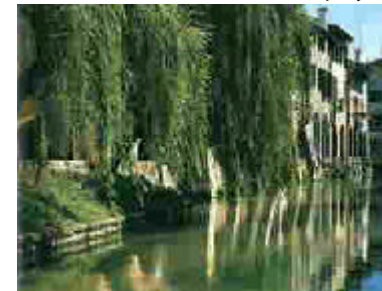
## 図 2 - 2 欧州の『ほどよい』都市

欧州の『ほどよい』都市に学ぶ  
(国交省国計局総計課「自治的地域の構築に関する研究会」  
2002.2.6岡部委員プレゼンテーション資料より抜粋)

- ・ローカルな行政都市で、周辺地域の核
  - ・落ち着いているけれど都市的なにぎわいがある
  - ・歴史的文化が観光資源に特化せず、市民生活の豊かさを支えている
  - ・オンリーワン産業はないけれど、ものづくりもそこそこある
  - ・身近に田園風景がある
  - ・近郊農家で採れた農作物が市に並ぶ
  - ・第2の人生を過ごす都市
  - ・生活中心に考えれば最も住みたくなる都市
  - ・ネットワークでリージョンを形成して大都市に匹敵する利便性を
  - ・地方分権化で行政機能が拡大しつつあるため、微少成長しながら活力維持
- (例えば) リヨンでなくディジョン、マルセイユでなくエクサンプロヴァンス、フィレンツェでなくアレッツォ、ベネチアでなくトレビソ、バルセロナでなくヘロナ、タラゴナ



アレッツォの旧市街地



トレビソの運河



ディジョンの朝市

ディジョン(フランス) 都心部の環境価値の保全強化(例:建物の保全再生計画制度による歴史的文化的まちなみの修復・創造)、歩行者と公共交通(バス)中心の交通政策、などに取り組む。

エクサンプロヴァンス(フランス):バロック建築の街角では弦楽4重奏やジャズが流れ、あちこちの美術館やギャラリーでは貴重なコレクションや意欲的な新進画家の展覧会がみられる芸術の町。画家セザンヌが描き続けた自然が今も残る。(『地球の歩き方』より引用)

トレビソ(イタリア):「ベニス」の庭」と称される、ベニスから30kmほど離れた静かな運河の町。 Fresco画と季節の花々に彩られる家々はイタリアの大都市には無い中世の静かな面影を伝える。ティラミスの発祥の地(阪急交通社HPより引用)。

アレッツォ(イタリア・トスカーナ地方):コベルト・ベニーニ監督(脚本、主演)の映画「ライフ・イズ・ビューティフル」の舞台。

ヘロナ(スペイン・カタルーニャ地方):都市の中の歴史的な中心地区を公共空間に再生(城壁の周りを修復して遊歩道を整備)。

タラゴナ(スペイン・カタルーニャ地方):ローマ時代の遺跡が数多く残されている。2000年に世界遺産に登録された。歴史を伝えるまちづくりに取り組む。

図3 相対的に自立した「地域」のイメージ

